

調査部報告書情報シート

記入年月日:2011年7月27日

情報No.	S-11-1	情報区分	プラ処理協調査報告			
題名 報告書名	2010年度 一般廃棄物使用済みプラスチックの搬入および処理量 調査報告書 ～「一般廃棄物処理実態調査結果」からの分析～					
報告年月	2011年3月	ページ数	52	著者・出版元	プラ処理協	

【キーワード】

処理方式		要素技術	
樹脂類別		化学物質名	
形状別		用途別	
法規制	一般廃棄物 容器包装リサイクル 法	国別	日本

調査 研究 内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境省が毎年公表している「一般廃棄物処理実態調査結果」のデータを基に一般廃棄物中の使用済みプラスチックの搬入および処理量を推定する推算法を新たに開発した。 2. 新推算法を使って推算した調査結果と当協会のプラスチックマテリアルフロー図とを比較した。 3. 一般廃棄物中の使用済みプラスチックの動向を分析した。
調査 研究 結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 搬入ごみ中のプラスチック量 1) 2008年度の搬入ごみ中のプラスチック量は5,423千tで2007年度に比べて2.8%減少した。 2) その内訳を見ると、混合・可燃・不燃ごみのプラおよび粗大ごみのプラ量がそれぞれ3.3%および15.3%減少しており、一方、資源収集されたプラ量は3.1%増加した。 2. 処理処分されたプラスチック量 1) 2008年度に焼却されたプラ量は3,839千tと2007年度に比べて0.7%増加した。また、資源化されたプラ量も955千tと3.4%増加した。 2) この結果、埋立されたプラ量は629千tと推定され、25.5%の減少を示した。 3) 焼却には発電焼却や熱利用焼却も含まれており、資源化されたプラスチックとあいまってプラスチックの資源化が進んでいる結果となった。 3. 2008年フロー図との比較 当協会発行の2008年フロー図と比較すると、プラスチック排出量が402千t(7.4%)フロー図の方が少ない結果であったが、プラスチック製品に添加されている添加剤類(安定剤、滑剤、帯電防止剤、フィラー、可塑剤等)や付着水分補正係数の誤差等を考慮すると良く一致する結果と考えられる。 4. 搬入ごみ中のプラスチックの状況 搬入ごみ中のプラスチックは、家庭系ごみから49.9%、事業系ごみから30.9%、粗大ごみから3.6%、資源ごみから15.7%排出されていた。また、家庭系ごみから排出されるプラスチックと事業系ごみから排出されるプラスチックの比率は約6:4であった。なお、粗大ごみと資源ごみを家庭系ごみに含めた場合は約7:3となる。 5. 1人当りのプラスチック排出量 1人当りの年間プラスチック総排出量は42.5kgであった。

6. 処理処分されたプラスチックの状況 排出されたプラスチックの内、焼却されたプラスチックは70.8%、資源化されたプラスチックは17.6%、埋立てられたプラスチックは11.6%で、1人当りの年間プラスチック量にするとそれぞれ30.1kg、7.5kg、4.9kgであった。
7. 「その他容リプラ」の分別収集の状況
 - 1) 今回の調査は、「その他容リプラ」の収集区分で各自治体を9つのパターンに分けてプラスチック排出量を推算した。「その他容リプラ」を資源として収集している自治体数は1,041で全自治体の57.8%（人口比で65.5%）であった。
 - 2) 収集パターン別に自治体数を見ると、P6-2とP4のパターンがそれぞれ654と621自治体で飛び抜けて多く、P2-2の313自治体が続いている。自治体数の約88%（人口比で約83%）がこの3つのどれかのパターンに属していることになる。
8. 1人当りの年間プラスチック排出量
 - 1) 1人当りの年間プラスチック排出量で、「その他容リプラ」を資源収集している自治体の平均値は29.3kg、資源収集していない自治体のそれは43.9kgであった。資源収集している自治体はしていない自治体に比べプラスチック排出量は14.6kg少なく、約67%の水準であった。
 - 2) 収集パターン別に見ると年間1人当りのプラスチック排出量で最も多いのはP5のパターンで52.3kg、最も少ないのはP1のパターンで24.0kgであった。
9. 人口規模別排出量
 - 1) 家庭ごみ中の1人当りのプラスチック排出量は20.0～22.1kg/年であり、人口規模によって大きな差がないが、30万人を境にそれ以下の区分で「その他容リプラ」の排出量が多くなる傾向にある。これは、「その他容リプラ」を資源収集している人口の割合が、人口規模が小さい程低いためと考えられる。家庭ごみから排出されるプラスチックの種類では、人口規模間での排出割合にほとんど差が無く、都市間の生活様式の同一化および分別基準の均質化が進んでいると見られる。なお、容リプラと非容リプラの比率は73：27であった。
 - 2) 事業系を含めた搬入ごみ（家庭系+事業系）中の1人当りのプラスチック排出量は、32.4～36.8kg/年とこれもそれほど人口規模によって大きな差がないが、家庭ごみだけに比べると差はやや大きくなっている。10万人未満の人口区分で最も少なく、10万人～30万人の区分が最も多い。小都市には事業者が少なく、産業都市が10万人～30万人の区分に多いことが原因と推測される。事業系を含めた搬入ごみ（家庭系+事業系）中のプラスチックの種類でも家庭ごみ単独の場合とほぼ同様の傾向にあるが、50万人以上の大都市でPETボトルが高い比率で排出されている。

備考 2011年7月27日、一水会にて記者発表